

築瀬小だより



やな ぜ

令和6年2月 第9号 発行責任者 新村 幸江

やな ぜ 魂

ともに進む

〈共感・共汗・共歓〉



たくましく
あかるく
あたたかく

チューリップの球根の芽が顔を出し、見ているだけで気持ちがほっこりしてきます。自然界は寒さの中にあっても、生命力を発揮していることに気付かされる瞬間でもあります。

新年から1月が経ち、校内を見回してもみんなで共に学ぶ光景に変わりはありません。が、当たり前に行きとることにありがたさを感じて生活しているかどうかは、改めて問いかけてみたいところです。

能登地震により被災された方々の一日も早い復興を願うとともに、私たちは日常に感謝しつつ、「なりたい自分」に向けて立てた目標に向けて、努力を忘れてはならないことを再発信していきたいと思います。

◆下校児童の「ながら見守り」実施 ～防犯活動の推進～

今回は、栃木県くらし安全安心課とともに、「とちまるくん、ルリちゃん、ブレッキー」が来校され、「ながら見守り」を実施しました。子供たちはキャラクターに会えたことが何よりの喜びになりましたが、目的とする見守られながら下校できることに安心感を高め、表情も和んでいました。



県では、PTA や地域の方々による「ながら見守り」を推進し、少しでも子供だけになる瞬間を減らし、犯罪から子供たちを守る底力を強化しようと啓発活動に取り組んでいます。本校においても保護者・地域の皆様に、登下校時の付き添いや見送り等でお世話になっており、犯罪が起きにくい環境をつくっていただいていることに改めて感謝です。

◆中学校訪問6年生 ～進学への期待を高めて～



「中学校では、みなさんの挑戦を先生方でサポートしていきます」静寂な全体会の中で心に響いた言葉です。子供たちは、さらに生徒会の説明、授業・部活動見学を通して、進学前の不安も和らいだようです。また、先輩の生き生きと活動する姿にあこがれ、校風の素晴らしさを感じ、進学へ期待を高めることもできたようです。何より、あいさつを心掛けようとする振り返りが多くありました。

◆ドッジボール大会 ～運動の楽しさを味わって～

運動委員会主催のドッジボール大会が、今年も1月末に開催されました。進んで体力づくりに励み、投力などを向上させたり、チーム内の協力、学年や学級の親睦を深めたりすることをねらいとしています。



◆ “届けよう、服のチカラ” プロジェクト～世界に届いた小さな思い～



本校で集まった子供服は、服を必要とする世界の子供たちへ届けられました。今年度はウガンダでした。服を楽しみに並ぶ姿、両手いっぱい嬉しそうに服を受け取っている姿、そして「新しい服を着ると子供が自信をもって学校に行ける」

「服が届けられるようになって皮膚病が減った」などの言葉から、計り知れない「服のチカラ」を感じました。

一人一人ができることは小さなことでも、今回のような善意の結集により、世界中の人々までも笑顔にできる。将来にわたって、子供たちが、「何か自分にできることは」と動き出そうとする思いを大切に育てていきたいと思います。

◆ 薬物乱用防止教室6年生 ～「ダメ、ゼッタイ！」の意味～



東警察署生活安心課の担当者から、薬物乱用の意味、身体への影響等の説明を受けました。脳と人体に大きな影響を及ぼすことから、子供たちは、薬物の怖さ、危険さを知り、「ダメ、ゼッタイ」この言葉がもつ意味を痛感していました。また、薬物の誘いを受けたときの断り方もロールプレイから学びました。



◆ 6年生との会食 ～6年生の今を知りたくて～

6年生の卒業前にやってみようと思ったことです。クラスごとに順次校長室にて会食を始めています。子供たちにとっての校長室は「初めてです」「小学校1年生の学校探検以来かな」と、やや緊張気味に着席です。が、会食が始まると表情も和み、話題は尽きません。給食で好きな食べ物の話になると、やはり「ココア揚げパン」が断然の人気です。



★教育支援者の表彰

栗原 伸一様

本校教育の支援や子供の育成活動を長年実践されてきた栗原様に「教育支援者感謝状」が贈呈されました。おめでとうございます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

★大谷翔平選手から野球グローブ贈呈

3つのグローブと一緒に大谷選手のメッセージが添えられていました。

「次の世代に夢を与え、勇気づけるため

のシンボルとなることを望んでいます」と。

見て触れる・使ってみるなどと、体験を通して子供たちの夢を大きく育みたいものです。



★地域の方から、ありがたいお知らせ ～喜びを共有、共感～

学校近隣にお住まいのお母さんがお子様と一緒に散歩をしていた時のこと。靴下を落としたことに気付かずに横断歩道を渡ってしまったところ、反対側から渡ってきた本校児童がお子様の靴下を拾い、引き返して届けたこと。「息を切らせながら走って届けてくれた男の子の優しさが、本当に嬉しかったです。」と結んでいました。小さな親切をお知らせいただいた地域の方へ感謝いたします。